

# 東洋医学通信

〈発行元〉  
 阪神中国医学研究所  
 尼崎市長洲本通1-16-17  
 〈連絡先〉  
 06(6488)8149

## 「医」の東西雑感

鍼灸治療というと、漢方薬と並んで東洋医学の実践の代表のように思われていますが、決して東洋医学概念のみで構成されているわけではありません。鍼灸においては東洋医学と西洋医学は車の両輪のような関係で、どちらか一方が欠けても成り立たないものであると考えております。

たとえば鍼灸臨床でよく遭遇する「腰痛」ですが、東洋医学的にみればこれの原因は腎虚・寒湿・血瘀等に分類され、それぞれ違った対処法が考えられます。対して西洋医学では筋膜性・椎間関節性・脊椎性等

共通する部分もあれば、まったく違ったところも数多く存在し、その治療方針・処置の方法・経過の予測等すべてが異なります。

しかしこれは鍼灸師であれば誰でも充分理解して、臨床の場に臨んでいるはずで、実際の治療現場では、常に東西両者の処置がミックスされていきますし、またその方がより良い治療効果があると、経験上感じております（ええとこ取りというところも悪いです）。

ただ治療家によっては、まさに極端な考え方をされる者もおります。



東洋医学の基本的概念である陰陽論・五行論・気血水論等を真つ向から否定し、物理療法（リハビリ室の機械で受ける治療がこれにあたります）としての治療に徹する者、また逆に東洋医学の概念に固執し、かなり特殊な処置を行う者等、さまざまあります。

これらはどちらが正しく、どちらが間違っているかという答えはありません。

ただどうすれば患者さんの持つ治癒力を効率良く高め、少しでも早く楽にさせてあげられるか、という観点で見れば、やはり大切なのは東西概念のバランスのとれた治療です。

阪神中国医学研究所鍼灸院では、東洋医学と西洋医学のバランスのとれたエキスパート鍼灸師がそろっております。安心してご来院下さい。



最後に筆者がまだ鍼灸学生だったころのエピソード。かなり東洋医学寄りの勉強会で、関東から招かれた講師が患部に一切ハリを打たない処置法を伝授した後、ニヤツと笑って「関西でこれをする時は、一本でいいから患部にもハリを打ってください、そのほうが抜群にききますから」と言われた。今にして思えば非常に意味深い言葉でありました。

鍼灸師 北尾寛